

有機農業の取組事例（大子町：大久保氏）

「有機米、特別栽培米等、土づくりを基本とした米栽培」への取組（大子町：大久保氏）

化学肥料に頼らず、オリジナルの有機肥料により土づくりを行い、水田ごとの地力に合わせて品種を選び、稲の力を引き出す米作りを展開しています。（現在：50歳）



- ◆ 栽培面積：約35ha（受託含む）－水田－
うち、有機米：約60a
特別栽培米：約260a

◆ 経緯等

- ・大子町山田地区は、中山間地域でありながら、周囲をなだらかな丘陵に囲まれ、川沿いの水田地帯は、東・西が開けていることで、日照時間が長く「日渡の里（田）」と呼ばれる地で、江戸時代から稲作を続けてきた歴史をもつ農家

□ 有機栽培のきっかけ、最近の展開等 ～大久保氏からのコメント～

- ・約25年、米づくりをしている。これまでも、色々な稲作農家の方との交流がある。従来から、特別栽培米の取組は進めてきたが、5年前に、米づくり(米生産)に閉塞感を感じている頃、稲作の先輩に勧められて、有機米の取組も始めた。
- ・最初、意外と上手くいきそうと思ったところ、途中で思い通りにならなかったりと、色々試行錯誤しながらも、ここ3年で定着してきた。
- ・農薬を使わないので、除草がとても大変だが、機械を自分なりに改造するなど、機械除草でも工夫をしている。
- ・面積は小さくても、今後とも、有機農業の取組についても続けたい。

- ・2006年 「全国お米日本一コンテストinしずおか」で最優秀賞を受賞
- ・2008年 農事組合法人「大久保農園」（年々規模拡大に伴い、法人化による経営へ）
- ・2019年 有機JAS認証（栃木：NPO法人 民間稲作研究所）

（参照）コシヒカリ、ミルキークイーンに加え、カミアカリ（静岡のコシヒカリ水田での突然変異株として発見され、全国でも栽培者4人だけ）を栽培するなど、米づくりへの探求心と全国にも幅広い交流を持っている